

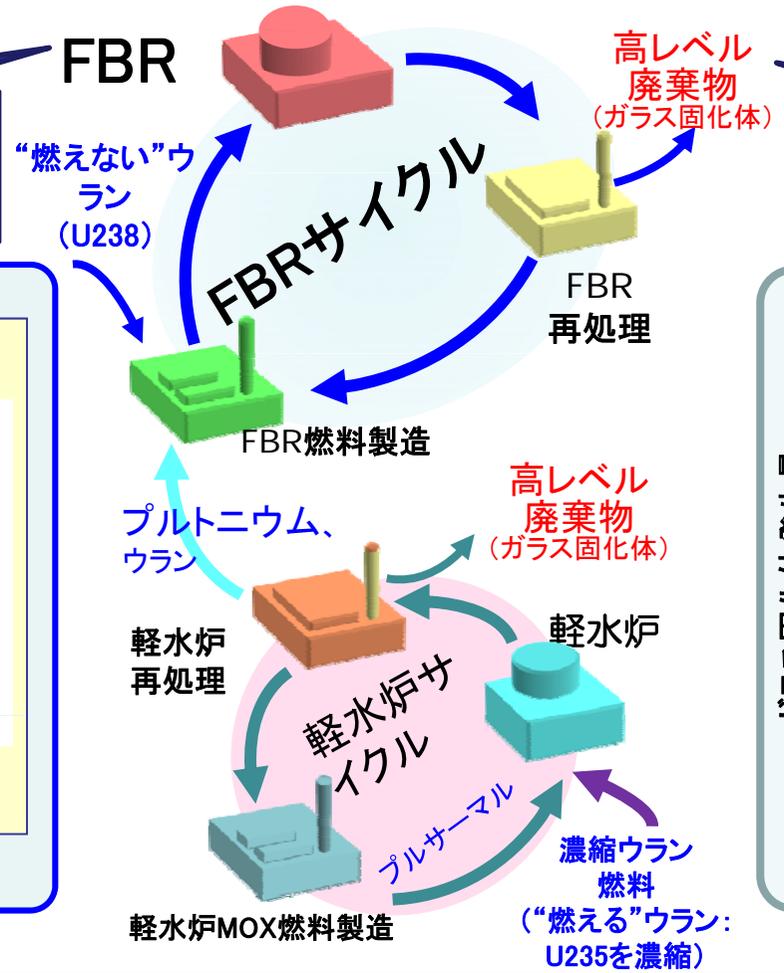
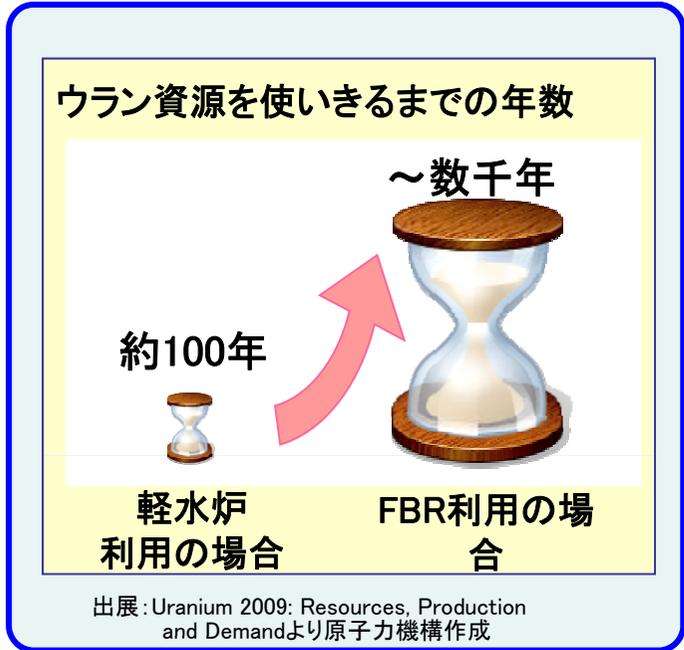


「もんじゅ」の40%出力プラント確認試験に向けて

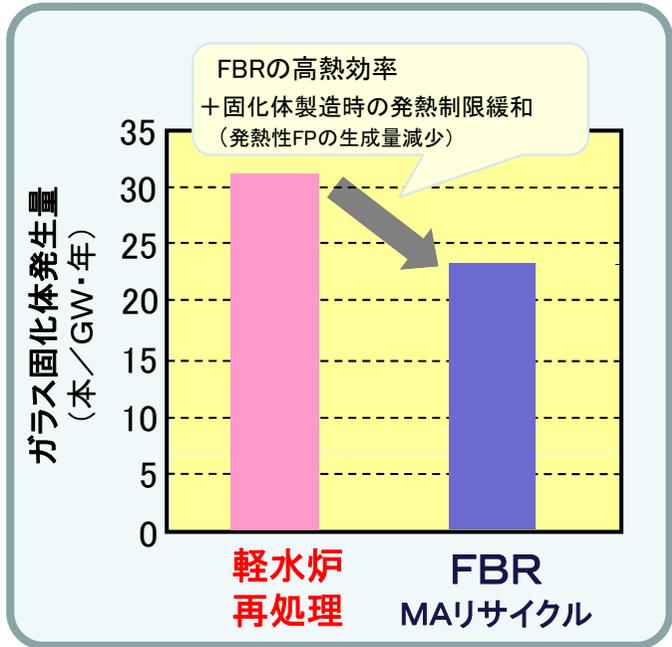
平成23年2月14日

日本原子力研究開発機構

燃料増殖による ウラン資源の有効利用

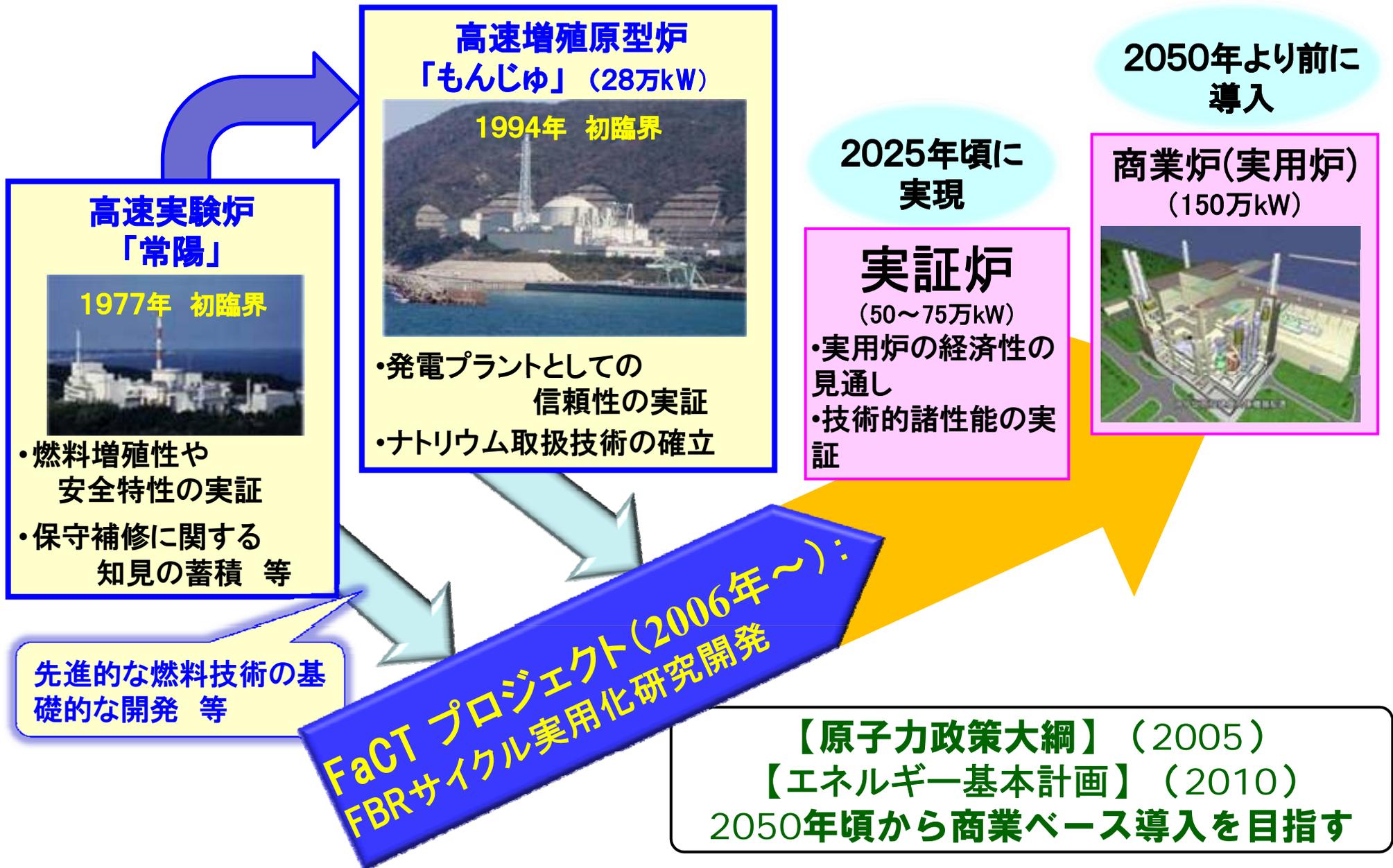


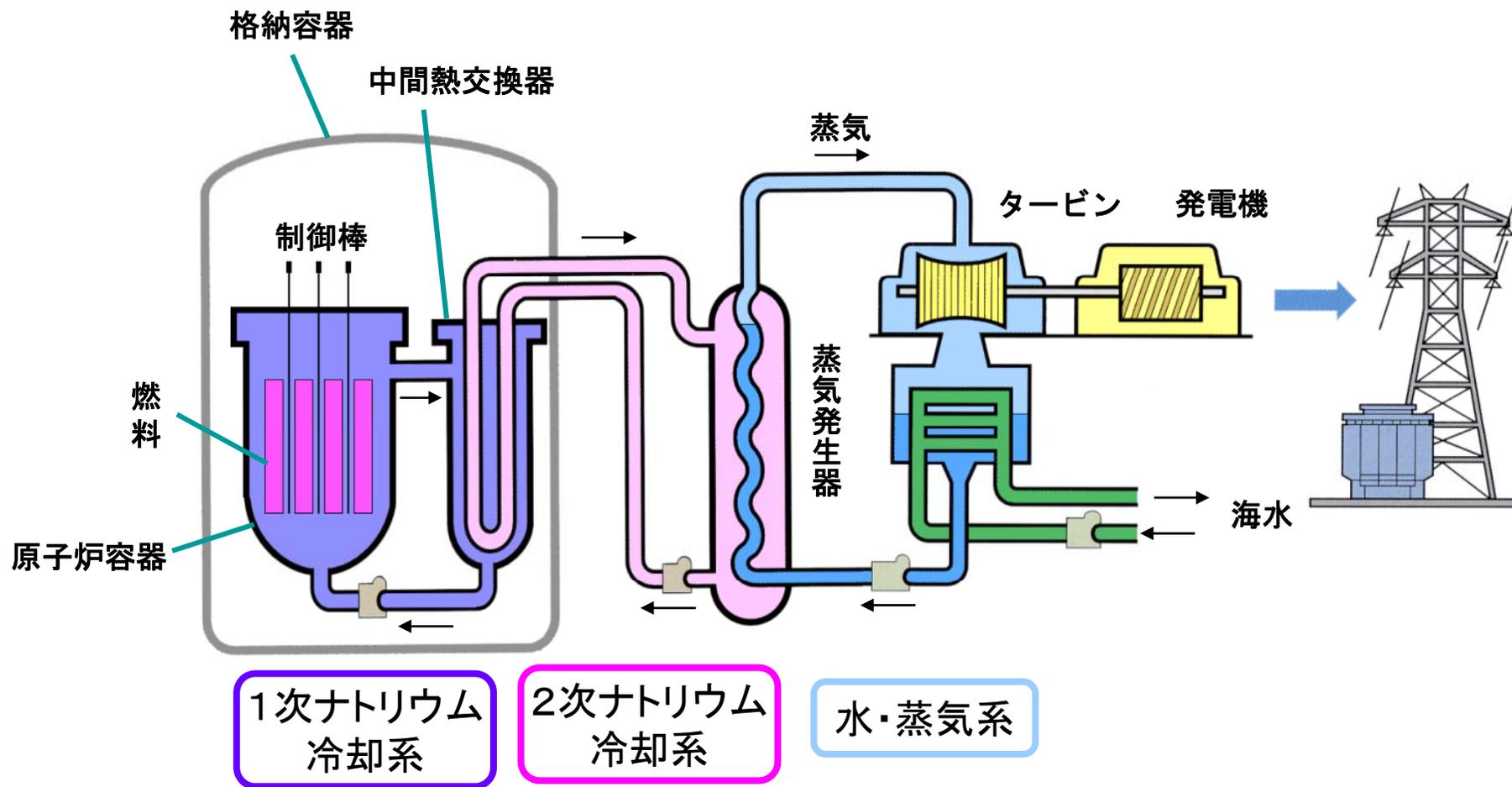
MAリサイクルによる 環境負荷低減



高速中性子を用いるFBRサイクル技術は、資源問題(燃料増殖)と環境負荷低減(廃棄物発生量減)に対して、社会の要請に応じた柔軟な対応が可能。

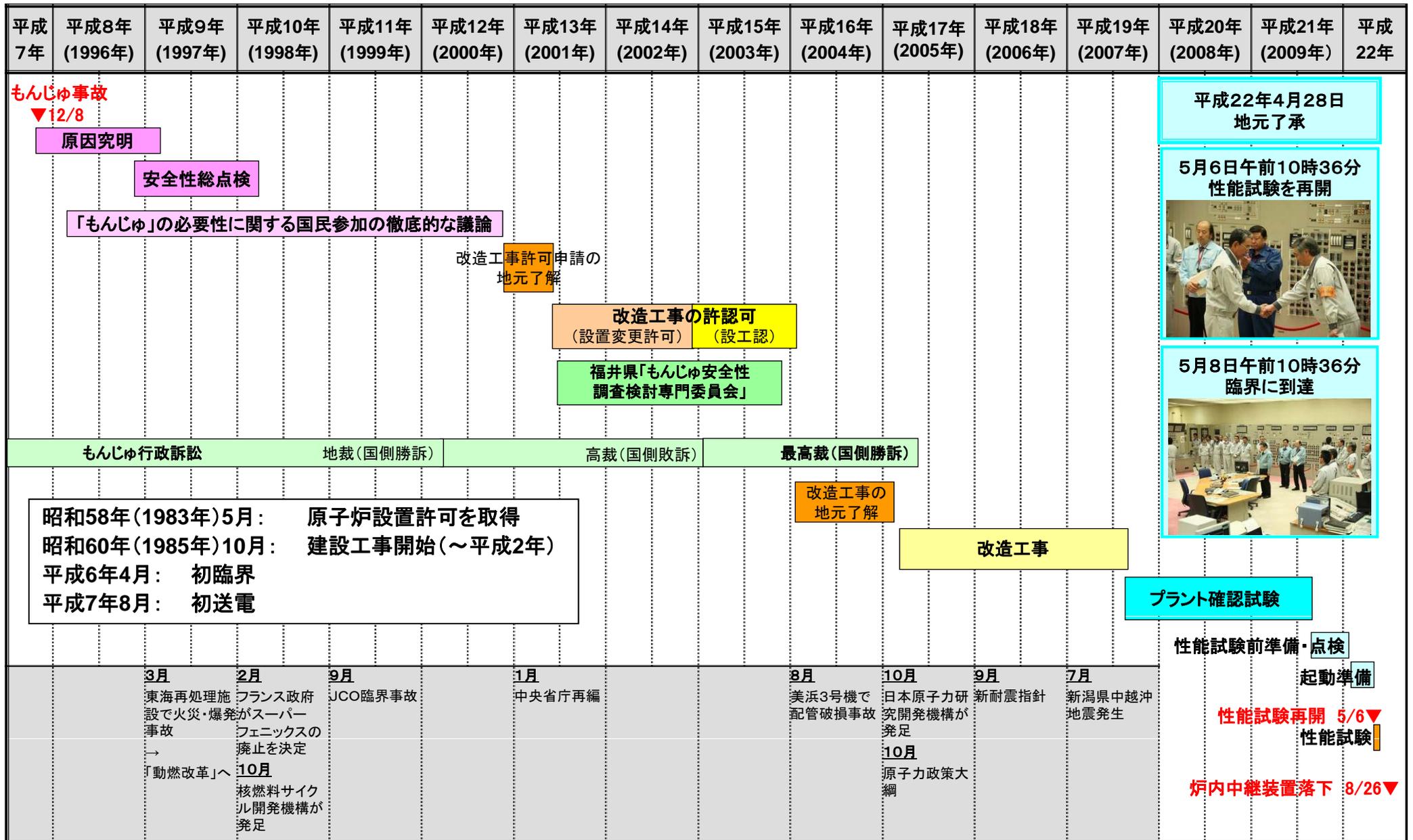
※ MA (マイナーアクチニド) : 使用済燃料に含まれる長寿命の放射性核種 (アメリシウム、ネプツニウム等)





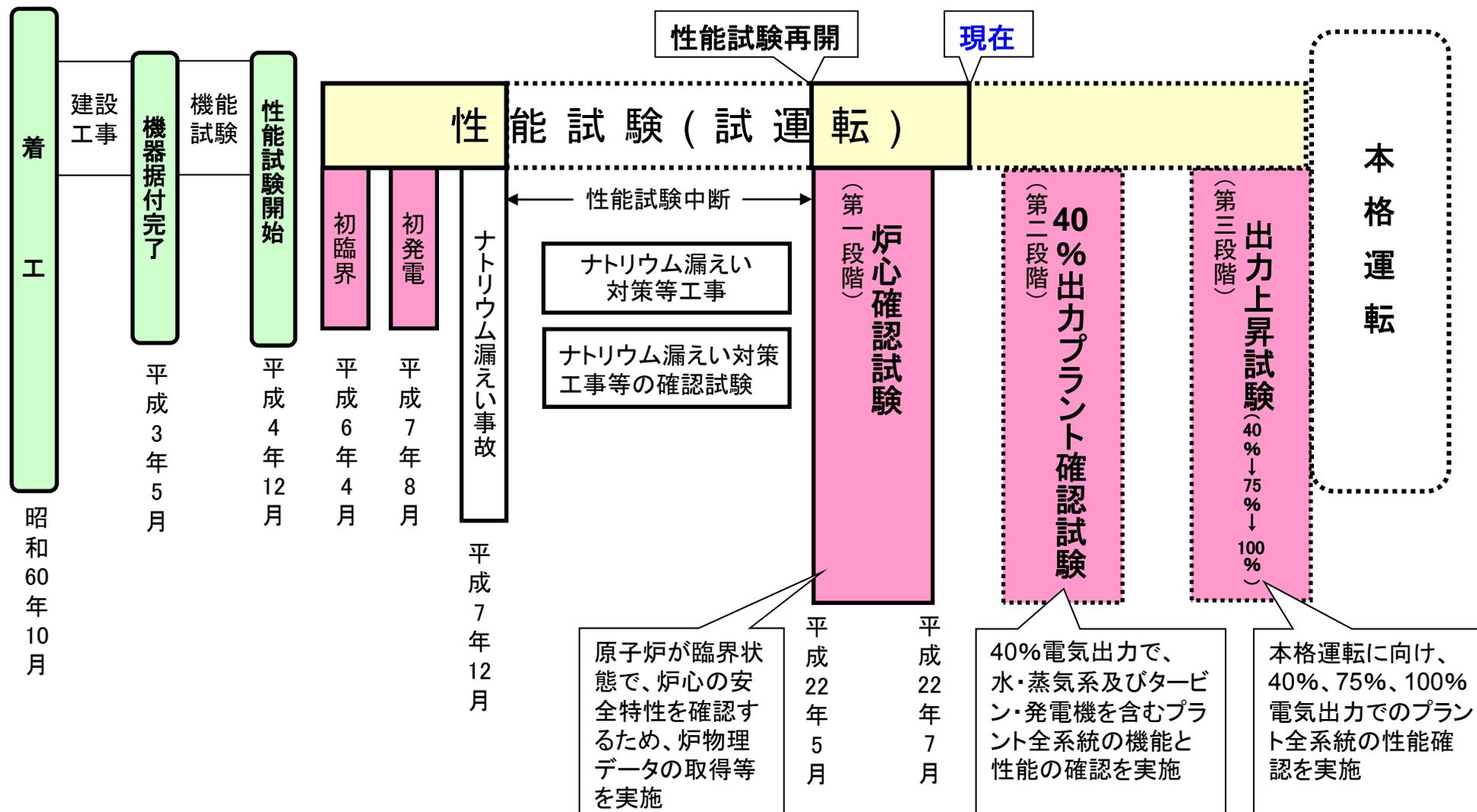
電気出力: 28万kW 冷却材 : ナトリウム

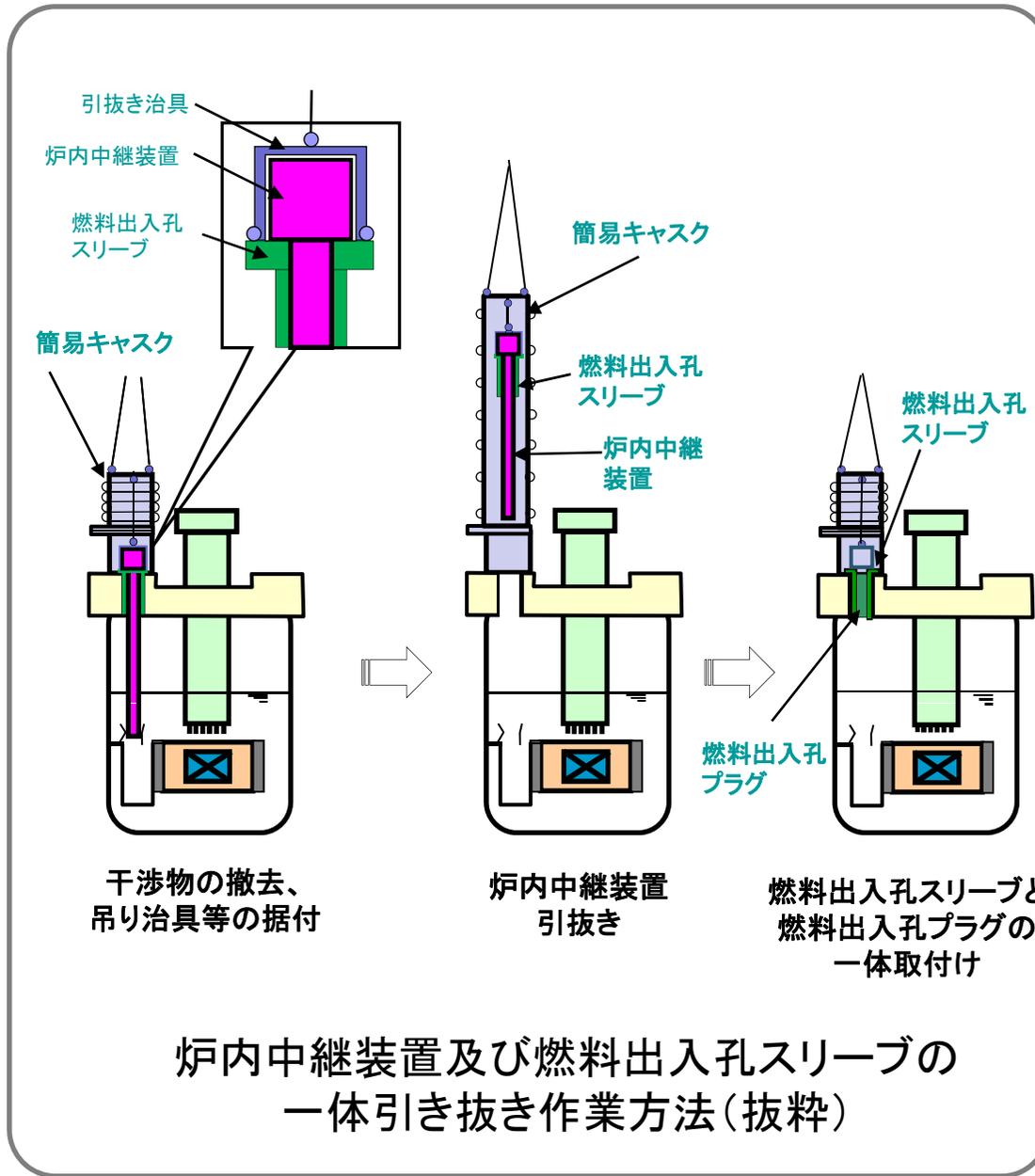
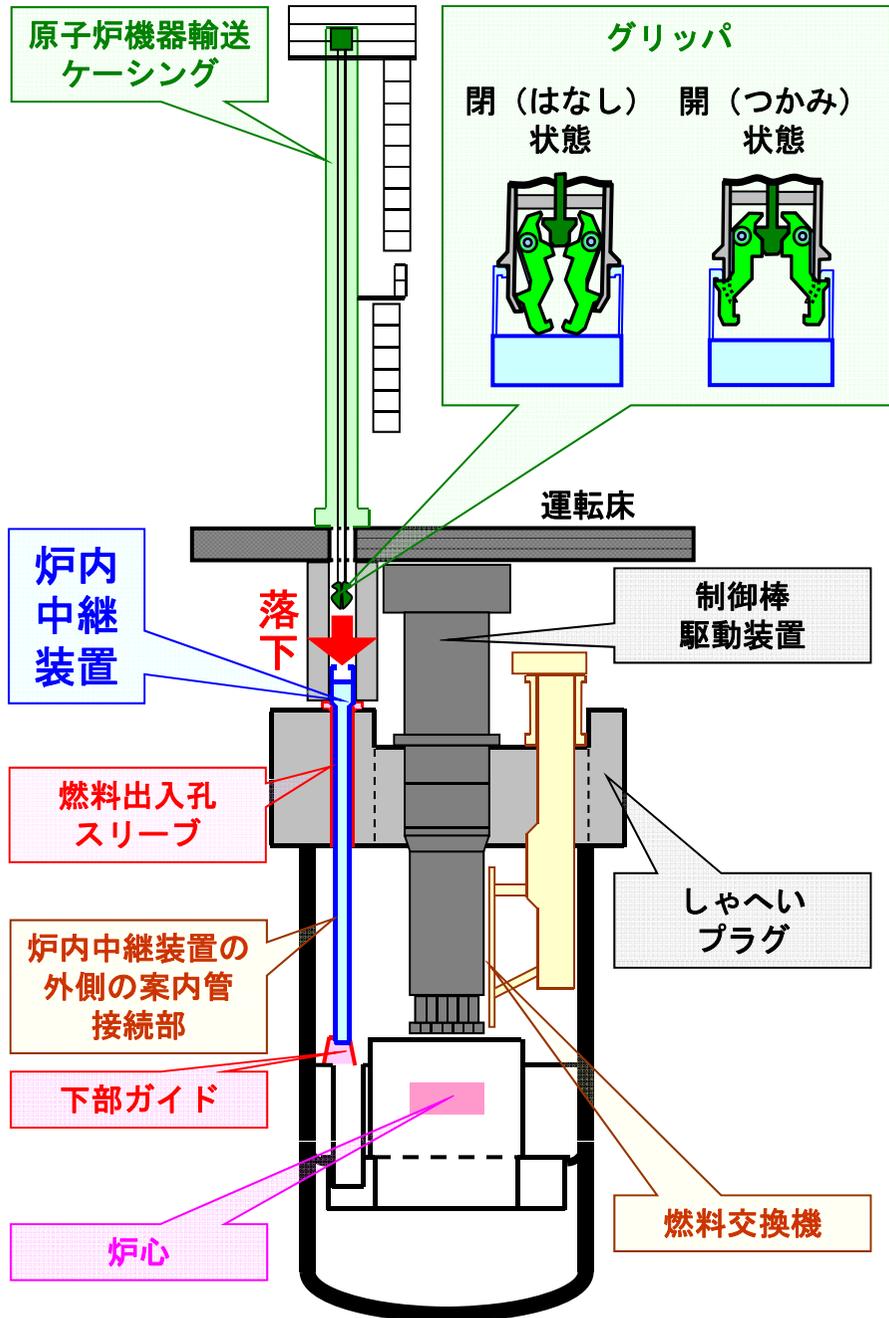
燃料: MOX燃料(ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)



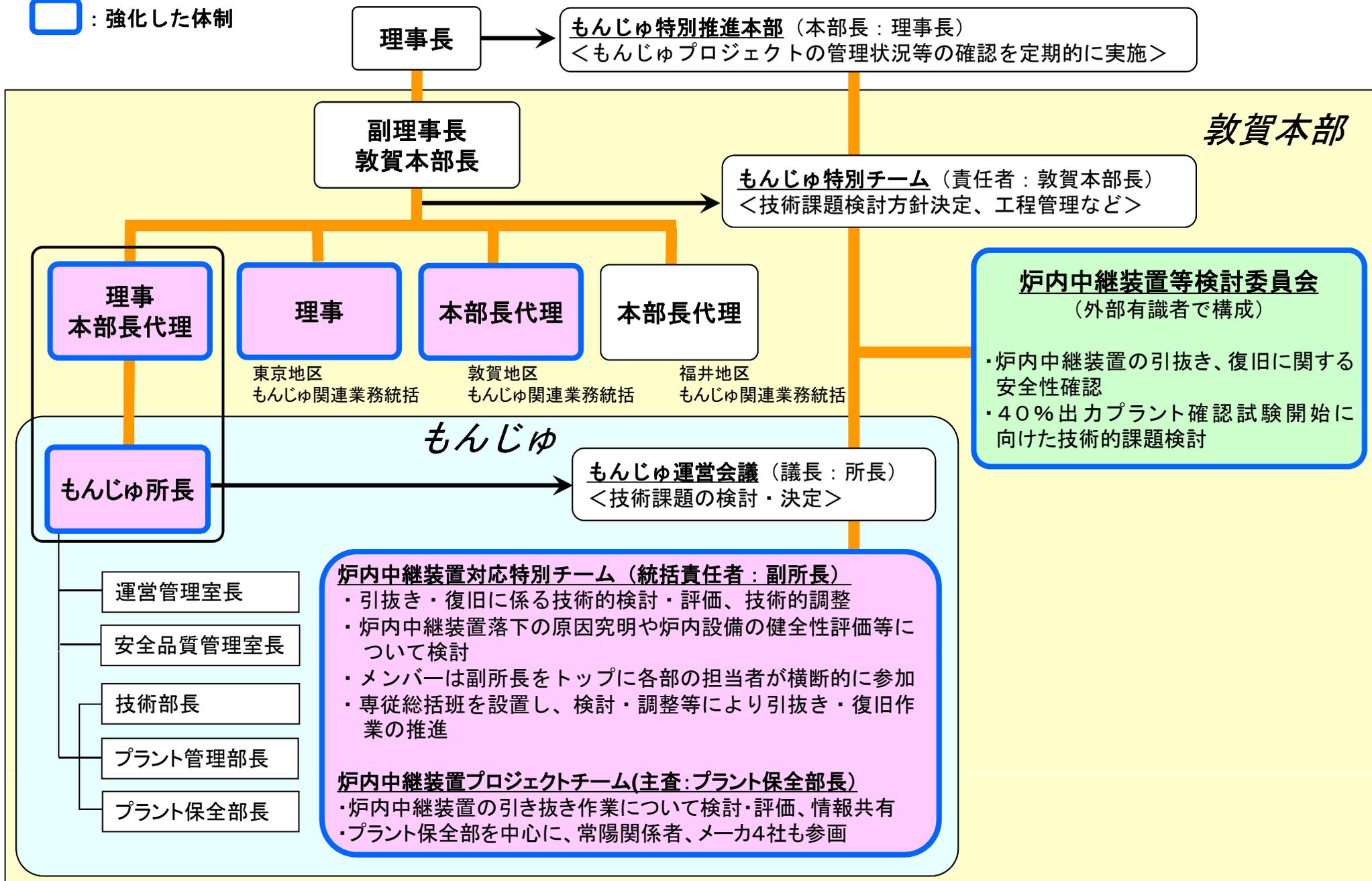


- 性能試験とは、
原子力発電所の建設工程の最終段階として、原子炉を起動して原子炉施設の安全性を確認するとともに、プラントの系統・設備に係る機能及び性能について国の検査を受け、出力100%での運転(本格運転)が出来ることを確認するもの。
- ナトリウム漏えい事故後、性能試験計画を見直し、三つの段階を踏んで慎重に確認して進めていく。
- 炉心確認試験は、平成22年5月6日に開始し、同年7月22日に終了。

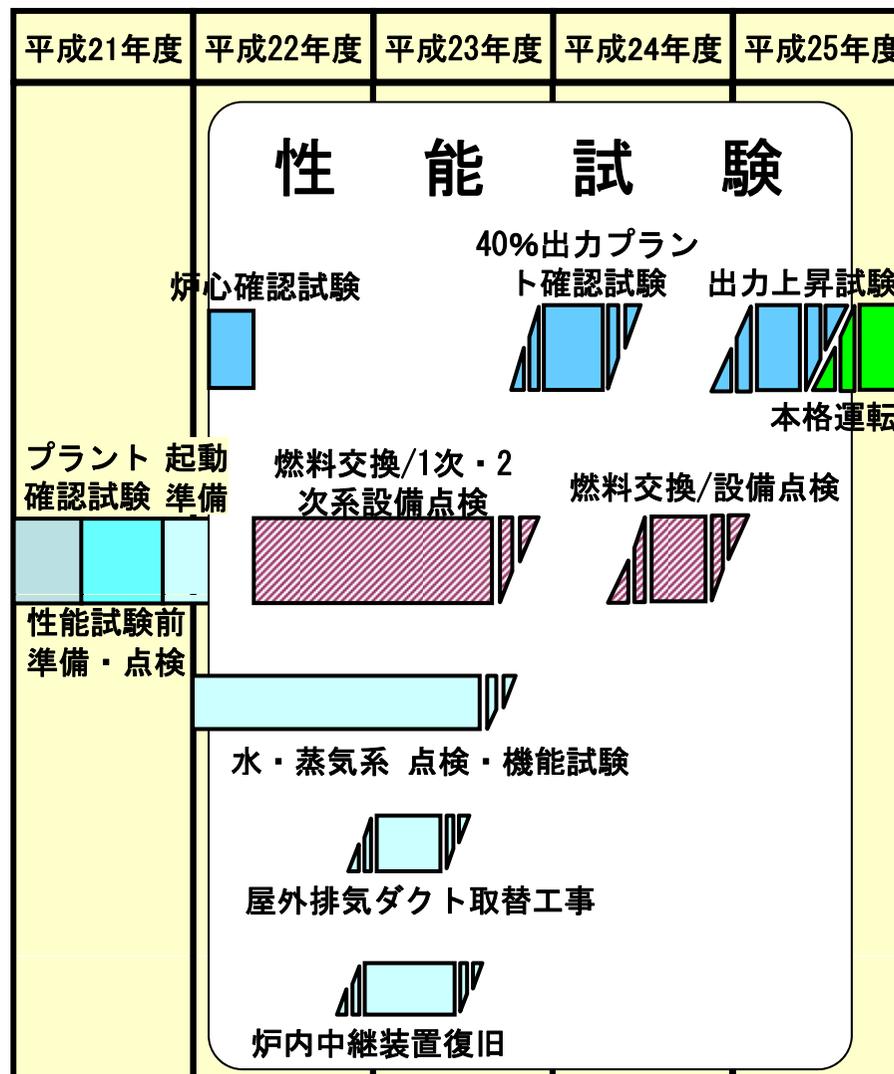




: 強化した体制



☆もんじゅマネジメント、対外調整、情報発信に関し強化された体制の下、平成23年度内の40%出力プラント確認試験の開始を目指す
 ☆平成24年度頃の出カ上昇試験の実施及び平成25年度の本格運転の開始を目指す



注)本工程については、今後の作業の進捗状況や前倒しも含めた検討を踏まえて見直すことがある。